



Re:短歌

TANKA

51組 102名による
返歌をテーマにした短歌集

Re:短歌

TANKA

51組 102名による
返歌をテーマにした短歌集

発行：2017.08.08
短歌：ご寄稿くださった皆さま
タイトル案：嶋田さくらこ
企画・編集・制作：千原こはぎ



満島せしん×ナタカ
九条しよーこ×文車雨
しましまし×こりけケリ子
なつお×さやこ
長月優×たかはしりおこ
笹谷香菜×星野さいる
瀬戸さやか×@kaizen_nagoya
たえなかず×嶋田さくらこ
民生×木蓮
田上連樟×黒井真砂
豊増美晴×雨虎 俊寛
月の子×雀 来豆
のつちえこ×杜崎アオ
犬飼あき×淡海わこ
もりのさと×Y川
悠佳里×ルオ
佐藤博之×西村曜
(お一人目のアカウント順)

Re:短歌

TANKA

51組102名による
返歌をテーマにした短歌集

月刻×ユチコ 笛地静恵×砺波 湊
春森糸結×桜望子 森緑×白井 健康
秋山生糸×湊屋 森本直樹×染野 太朗
千原こはぎ×天国ななお ナイス害×平岡 直子

諏訪 灯×御殿山みなみ
まつね×深影コトハ
門脇篤史×道券はな
逢×知己 凛
尼崎武×杉谷 麻衣
新井蜜×酒井あんな
水沼翔太郎×泳二
岩田あを×山上秋恵
ムル×冬 泉
かしくらゆう×安西大樹
ひの夕雅×なぎさらさ
穂崎円×大葉れい
はだし×スコラブ
拜田啓佑×多田の
蓮沼りんぐいぬ茂木×檀可南子
鳩麦×かつら いす
野村日魚子×カリフォルニア樽様
双葉屋ほいる×奈月遥

佳丘一穂×東夏江実 月丘ナイル×川庭多機構
榛 瑞穂×本山まりの 小川けいと×大塚亜希
御糸さち×井倉りつ 高橋 鳩×岐阜亮司
みちか×町田もちこ 太田青磁×麦野結香

時がめぐれど変わらぬ仲の2人2年目また駅で

ねえもつと速く進んでくれないか？ 僕らの駅で君が待つてる
君を待つ駅の時計はサボリ魔で針が9へとまだ届かない
(いよいよだ) ホーム改札ダッシュして愛しい君へ叫ぶ「ただいま！」
駅前でドラマもしないことをするまっすぐばかな君が……うん、好き
喜びがあふれだしてく幸せだ君といられるただそれだけで
嫉妬とか寂しさだとか君がいるだけで消えてくやっとな消えてく
久しぶり待たせてごめんねこの夏はずっと一緒にいると誓うよ
一緒ならいつもの街も夏色でいつか駄弁った店まで歩こ

悠佳里 × ルオ
@yujkarl_rito @ruoi29

サマー、オーライ

この先に不安を覚えた夜が明けとりあえず今日も働いている
覚えているふあんです、来るいちにちをいちにちとして片付ける肩
たぶん皆見えない荷物を背負ってる大きい背中も小さい背中も
夏ですしキャンプファイヤーもうもつと見えぬリュックを焼いてください
玄関のドアの向こうの音たちが夏を抱き止める覚悟を迫る
あれはセミ、あれは風鈴気がつけばさまあ、さまあとクーラーの息
がごろん冷蔵庫から響く音きよう何度目かの氷が落ちる
量産型麦茶に消える氷らの流れ作業にやわらぐ不安

諏訪 灯 × 御殿山みなみ
@skydew @tookatz

風の色

由良のとの舵たえながら西風の吹きゆくままに流れ行かばや
西風に(後ろの正面) スカートの裾は乱れて(だあれも居ない)
わが来ぬときやかに見えぬ裾を吹く西風や汝が裾を染めらむ
スカートの裾を裾から両膝をそれからわたしを染める風待つ
吹き過ぐる裾をしるけき香に染むる女郎花さく野の風の色
女郎花さく野の風の色になら教えてもいい本名その他
けしきふけ雁音づれて行く野とて君に咲き向く花の一輪
一輪の花と目が合う あなたの飲む水の名前を知りたくおもう

佐藤博之 × 西村曜
@Z_Bozhi @nsmrakira

はじまりの時は今

陣風の君は突然あらわれて魂ごと吾を連れ去っていく
友達でいい、魂に触れられる場所であなたに寄り添っていたい
寄り添って歩く夕焼け空の下握った君の手はあたたかい
夕焼けのせいにしておく赤らんだ頬二度くらい上がる体温
かたい芽がほころぶように笑うからつられて頬がゆるんだ 好きだ
碧い瞳は気弱な我を貫いて信じあうことでふたりは始まる
あざやかに世界が色を変えていくもっと話をしよう、ふたりで
こいびとよ一緒に夢を生き抜こう負けそうな時も側にいるから

犬飼あき × 淡海わこ
@wanko_aki @oniwako

Time travel honeymoon

Time Travel tax
君にだけ時間旅行税の二重課税の不満を漏らす
ラスコーの壁面に私を描き足して本当は機嫌いいでしょう、キミ？
陽気見抜かれ笑いあってるその顔のまんまで記念写真を撮ろう
写らない私達だと忘れてるキミを透かして撮るオリオン座
(オンザロックの水が溶ける)ねえやっぱホッキョクグマも見ておきたいな
体内に埋めた時計が動き出す楽しい旅ももうすぐ終わり
両手からこぼれるほどのしあわせを未来の先の先の先まで

Depart for our century
離陸準備完了。眠そうなきみに寄り添い不変の月見

きつね × 深影コトハ
@00kitsune @cotoha_mikage

夜半の電話

かすかなる毒を含みて染みゆけり夜半の電話に交はず言葉は
面白い話だけして五時間を過ごしてなおも一人の部屋だ
静ひのいきさつなどを聞きながら窪みの多き爪を切り終ふ
これからのことは一つも話さずに減らし続けるミルクコーヒー
果つるまで互ひ違ひに諍するいと苦き歌甘たるき歌
聴き取れないくらいの声で歌われる天国に行くための唄
天国は遠しと思ふ明け方につがひの鳥の声ぞ聞こゆる
世界から足を離していた夜のおしまいで待っている明烏

もりのさと × Y川
@Wonderful_Maze @clonecogamato

ピーマンを裂く

ピーマンの中に空洞 包丁の刺さりて入る光かきみは
最後まで割れば見えなくなるひかりをおぼえておいてくれるあなたは
内奥に溜まる記憶をすくひとるおぼろにきみの映りてをれば
種を掻きいだす手つきで思い出すふたり乗り損ねた観覧車
ピーマンに詰めてゆく肉あひびきの肉を詰めれば粘つきて、指
指をかける窪み少ないピーマンをやさしく破ってあはく晩夏おそなつ
ひそやかにあなたがここにゐる日々のすきますきまに咲くばらの花
僕もよくやると慰められたとき鳩尾にふと咲くきんぽうげ

門脇篤史 × 道券はな
@508atsu @peter_pan_co



ラストノートからはじめよう

りりん、ってなる風鈴がきみの名を呼びかけているようで愛しい
青田風ほくの体を撫でるからきみにいますぐ逢いたいと啼く

呼び捨てがゆるされなくて「様」つきの手紙を風よさらってほしい
丁寧なひとつひとつの字をなぞりきみを抱く日を夢に見ている

「待つてる」はいつまでですかほんのりとラストノートが移った便箋
封を切りきみの香りに誘われ気づけばいつか高速の上

パーキングエリアの薄いコーヒーを舐めればキスするための唇
震えてる肩をふわりと抱きよせる柔い唇確かめたくて

少年と犬

わたくしは今なら表示価格よりさらに三万円引きの犬
夏休みはじめて暮らすこの町で寂しくないけど猫を飼うんだ

犬には犬の処世術 人間はしつぽを振ると喜ぶでしょう
ばあちゃんのハタキのようだウインドウ越に見つけたこいぬのしつぽ

あれは招き猫のポーズ プライドが邪魔してお手が覚えられない
猫がすき でも不器用に宙を掻くきみを選んでみるのもいいか

わたくしは犬 わたくしはわんと鳴く しつぽを振れば舞いあがる空
もつきみに決めたってなぜ分かるんだぢぎれるほどにしつぽを振って

完全無敵の日々



赤いリップをひと塗りすればもう無敵明日のぶんまで日記を書いた

絵はがきの青いインクはあさがおの赤いインクは薔薇のいろみず

ミニ薔薇が咲きはじめるこの庭は無慈悲な蔓と棘の王国

そよかぜが吹いたら無敵だねきみのブドウの蔓のような巻き髪

SiEにきいたら完璧ネコの巻き髪をコテできれいにツくる方法

「キチな」になにげに言えはらうのかなSiEからGoogleNowに変わる日
かわるかわるよわたしは変わる早ければ明日か明後日にはカンペキに
聞いてみたい昨日のわたしはどうでした？もし明後日のきみに会ったら



逢 知己 凜
@ai_thankyou @Crikonin7

尼崎武 杉谷麻衣
@amagatak @kazanagistreet

海へゆく窓

天窓をそめる青さに呼び出されいま君の名がよぎってゆきます

呼ぶだけで詩かもしれないそのつちへ仔犬みたいに走ってゆけば

森へ着きました 岬へ向かう砂利道に飽きたら蹴って進んで

灯台のあなたがここになくてもかざしつづけている手のひらを

指の間より雨そそぎきらきらと美しいものすべては空から

うらがわを知り終えてなおうつくしい月だよターマンシヨンの上
あかつきは風に流されこの眠さだけが残って いま行く、待っていて
おいで。おいで。表紙としての窓をあけいっせいにしろはと飛ばすから

月の子 × 雀來豆
@tsukinoko18 @jacksbeans2

のつちえこ × 杜崎アオ
@tuchinoco622 @morisaki_ao

黄桃綺譚

耽溺をそそのかす本の帯の背の〈綺想世界〉に迫る夕暮れ
黄昏くわんごんの書架に充ちゆく隠り世を彷徨すれば招く手のあり
隠り世へ招く手を取るこんなにも貴女の肌は冷たかつたか
黄桃の重さつめたさ圧覚の糲糊なるままに頬を噛み合ふ
甘噛みの果てに熟れゆく果実あり朝の陽射しに笑窪は深む
陽の滴りに砂糖の城の崩れゆくやうに女を一人亡くしき
ただ人が人としてあるむづかしさあなたの中に太虚おほむすしがある
いつか太古星むかしの息吹として逢はう幻想古譚此れにて仕舞

田上連樟 × 黒井真砂
@thirstysoul575 @higureya

姫たちの双紙

恋猫を蹴飛ばす僕を振り向かず中将姫はだるまささんがこ
手を伸ばし転ばぬ先に支へてよ募る想ひに火照るからだを
本能寺の庭を真白きくちなはが這ひてあなたは濃姫の裔
くちなはの細き舌もてねぶられてとろけてしまふわれの柔肌
雨あとの川で拾ったこの簪に備名田姫と刻まれてをり
八人の姫の心を欲しがりて八岐に裂けぬ大蛇の首は
ひと恋ひてはち切れむ胸押さへつつ人魚の姫は泡となりゆく
はち切れむ皮膜のしたで泡立ちて飲まるときを待つ血潮かな

新井蜜 × 酒井あんな
@rainitsu @sakai_anna

ロミジュリ公園

忘れもの取りに近道 公園の噴水そばにつがいの蜻蛉とんしん
たれそかれ？ 一声かけた 蜻蛉の目をくるくる回す君が振り向く
鹿威しかむじしに似た君のテノール響いてる 紫苑しおんあふれて公園は詩画しゐが
ネイルからアラインまで夢二だね 叶わぬ道と……だがそれでイイ
腰つきは「黒船屋」の黒猫になる 視線にじわり湿る綾絹あや絹
ダ・カーボを月に願って吠えたんだ 綾なす心は雨でぐじゃぐじゃ
もう一度生まれ変わるなら犬がいい 君の遠吠えもう止んだかな
凌霄れんそう咲の花に面影よみがえる つなぎあうなら君の手じゃなきや

豊増 美晴 × 雨虎 俊寛
@to_go_go_n @amefurashi3107

歌をひらがなにしています。一番最初の文字を順に読み、次に一番最後の文字も同じように読んでみてくだい。ワン・チャン・ちなみに「ヤ」は「じ」のように直前の文字もあわせてみます。

ワンセッション

板東英二をながらく見ない大阪で君と一緒に刺くゆで卵
新聞を床に広げている君は猫町を忘れた朔太郎
三面記事を二回読み上げゆで卵真上に投げて「セー」で食べた
三面記事を食べたせいかな太陽がロールケーキのうずまきになる
オリックスとは折句ありがたいの略ハッピー・バースデーあなたもドームも似たようなもの
ぼくたちの幼い夢を育てたらできた童夢というダサイ何か
成田童夢も大阪のひと泳二さんロールちゃんでは何味が好き？
大阪で生まれた男汗だくで二枚目半にまいはんの役を演ず

水沼朔太郎 × 泳二
@audelawikeshi @EJshimada

喫茶黒猫

暮れてゆく空を指しながら黙り込む色を喩える言葉を持たずに
夕焼け色の紅茶をいつか飲んだよね古い喫茶であなたとふたり
はじめからこうなることはわかってて珈琲につける薄いくちびる
珈琲が濃くて静かな喫茶には大人ぶってた私とあなた
眠れずに冴える身体の感覚を遮るような猫の大あくび
猫にしか話せなかったかなしみを珈琲の間に混ぜ込んでみる
あなたには一種の薬となるだろう溶けゆくように忘れられるさ
ブラックの珈琲きりり あなたには伝えきれずに飲み干した夢

岩田あを × 山上秋恵
@AwoTrk @akemuroran

夏速度

絶対であることその一 潮風は二人乗りした夏の腕から
おそろいで買った水着の色褪せて海の匂いがしないわたしは
きみの海、きみの空そのふた色はいつか私へ雨を降らせる
泣いたこと話してくれてコココーラ回し飲みして渚で会えば
言葉より水がまぶしい去る後ろ姿を濡らす雨ならとくに
傘のない二人でいれば終わらない話が得意なのはあなただ
蝉しぐれの無音の中で始めよう今年限りの永遠、ここで
かき氷、木霊、麦わら、夏休みのあなたの髪を結ってあげるよ

たえなかず × 嶋田オウゴン
@suzusuzuz009 @sakitako0304

星体遊戯

君に想い届けと願う歌詠めば流星降らせる宇宙^{そら}の返歌よ
愛戯^{ラブシグマ}の酔醒めやらず流星群空の向うに奔るに任せ
その髪に酔いしれ墮ちた夜だけを祝祭とする星の伝説
ぞろぞろと猫けだものを引き連れて架空の街に星を見る宴
猫町に売られ行く姉いもうとに流星雨とは涙か花火か
妹も姉もトミノ火の雨に撃たれ血を吐く終のまぼろし
星として生まれた星に人／猫として生まれて歌を歌として、今
彗星が戻りくる頃逢ひませう同じところでべつの姿で

ムル × 冬泉
@Books_Bartleb @etleerranet1

海へ

九十九里 霞の中に光る朝「ここにいます」と刻む文月
幸せを人と比べてしまったから帰ろう九十九里の海まで
「おかえり」と「いつてらっしゅい」繰り返す波打ち際はやさしいふるさと
海に帰す君も私もウミガメもきつとおんなじ熱量を持ち
かえすがえすありがとうしか言えなくて波に乗せてく刹那の舟に
舟に乗り沖に漕ぎ出す 白妙の月も一緒に連れて行こうよ
白妙の月とならんだゆりかごの波にゆられるゆらゆらゆるる
故郷を離れて進む海原も幸せと気づく友がいるから

民生 × 木蓮
@tamibontami @FirstFruits1125

八月の太陽高度

ねえ眼鏡貸して。あたしがかけたときどんなくちびるのか見せて
くちびるはただのシャッター歯と舌の殺意を漏らさぬように濡らして
濡れてゆく睫毛、木漏れ日、窓枠が切り取るものが罪だとしたら
もう北へ帰るのですね僕じゃない誰かのくちびる振り解けずに
ハスカップ味のいろはす含みつつ舌の記憶を馴染ませている
気がつけば好きになってた八月の太陽高度を測る眼差し
かんぺきな逢瀬でしたね真夏日にあなたの靴の先はまるいね
ターミナルEカウンターで泣きだした君がいてもいなくても 東京

笹谷香菜 × 星野さくらくる
@sstkn @greenchariz

黄昏を盗みませんか

暑いねと日陰に逃げる おしゃべりな陽射しに話聞かれたくない
錆び付いたオルゴールから海鳴りが聞こえる君が夜を開ければ
昼の月指で弾くの貴方から返事ひとつも飛んでこないし
鼻と鼻押し当ててみる夕波が陽をきれぎれに散らす束の間
ねえ次はどうしたいのと言いかけたページに入道雲の朧を
僕たちは円をさがして空を見る四角い闇を削り取りつつ
膨らまず頬をあなたの指が突く朝が燃えだす傾いたまま
目隠しをする君の手に陽は沈み我へガスの大四辺形

かしくらゆう × 安西大樹
@cassju @merghainan

七夕の夜

初めてのキスを交わしたその夜にひとりこっそり復習をする
夢の中予習した時とは違い月の光に恥ずかしそつで
太陽の光は眩しすぎるよねふたりなかなか顔も見れない
星空と一緒に見よう七夕は丸いドームのプラネタリアム
本当はリアルな夜空ふたりして眺めてみたい星見えずとも
学校の屋上夜中に見渡そう星より街のネオンが綺麗
七夕の願いは君ともう少し近づきたいな キスしてもいい？
ひらがなの最初の二文字を意識していいかどうかをドキドキ迷っ

瀬戸さやか × @kaizen_nagoya
@st_sjk @kaizen_nagoya

くろりくろり

ポケットに君の左手誘い込む寒波は僕を勇者に変える
左手で右手を抱き締めていたい 大きくステップ、赤らんだ頬
ごめん僕は君の歩幅を知らなくてミニスカートに無理させていた
春風が誘った長さのスカートであなたとふわり飛ぶのもいいかも
跳ねている君はうさぎのようであり浴衣を着ても同じであった
「祭りだよ」「内緒だよ」って差し出した火花が照らすあなたの口許
口寂しい食欲の秋やり過ごす君が差し出すガム、変な味
二人してぶどうのガムを膨らます弾ける午後は甘ったるくて

ひの夕雅 × なぎさらさ
@croissant_hej_z @spice16g



デイジー・デイジー

あおいあおい GoogleEarth の海底が今日も綺麗で海に行きたい
港まで道案内をしましょうかそれとも空を見上げましょうか
真空の宇宙で星は歌うこと それで恋人は君にいますか
恋人がいれば今ごろ夕焼けの青くかがやく火星にいます
ロケットは持っていないからでたらめな君の神話の続きをねだる
その星の祝福と罰ちはやふるソースコードを盗んだゆえに
あかねさす百万ドルの残業で眠れぬ夜だ うたってよ、Siri
「子守唄」をウェブで検索してみます (いつものようにあなたの苦笑)

穂崎円 × 大葉れい
@golden_wheat @taju_over

近くて遠い



手に取った本は奥付から見ると小声で言った古書店の隅
奥付をいつも見ているくらいにはあなたの声は聞こえています
読まれもせぬ本をどっさり送りつけやがて疲れて秋のため息
大切な本を私にありがとう少し自分を嫌いになれた
デコルテやデニールなどを教わって僕はすいぶん賢くなった
デカルトやデニーロなどを教わって全部忘れてキレイになった
鞆から黒くて古い傘を出す君が世間に濡れないように
どうしても内なる世間に雨は降るあなたの傘はうれしいけれど

なつお × ちやん
@snezer1972 @tank385

かなかな

2階からカップスープをとってくる音に紛れてゆく雨の音
旅行から置かれたままの手荷物がクルトンのよう寝そべる床で
見返せば写真のなかにふたりとも写っていないイルミネーション
電飾の色は写真でかがやいてそっちの機種も同じなのかな
機種変をすればなくなる傷に触れている あなたは眠ってるかな
もつすぐに1時を過ぎて眠れなくなるより前に買いに行く水
自販機であなたがきくと買いそうなるひかりへ蛾とかあつまっていて
なまめるいひかりの雨で早足の理由はそれでじゅうぶんだって

はだし × スコップ
@hadashinomamau @scope_scape

ドトールのろけ合戦夏の陣

華やかなスカートの黄を似合うって君が言ってくれるなら買う
きみが撮るわたしはいつも笑ってて満月みたいだしきみが太陽
おそろいで買ったグラスを丁寧に包んでもらうときの微笑み
渡したいお土産ばかり増えていく今日もたくさん流れ流れ星
手を繋ぐときの確かさ 輪郭をひからせて夕焼けを眺める
安心ってこういうことかもちもちのおしりにそっと顔をうずめる
すこしずつ似ていくことのうれしさがおそろくは愛、並んで歩く
わたしきつとそのつちなつりおこたなる Pod から流れる Yuming

長月優 × たかはしりおこ
@spicadrop @nashikkr

甘い雨垂れ

小さめにすればよかった並ぶ傘の中心距離が少し余って
大きめでよかった君が近すぎず肩も濡らさず歩ける傘で
間違ったふりして肩を寄せてみたい演技じゃうまくよけられない
肩を抱く準備はとくに出来ている指が揺れてしまったまに
教えたい気持ちと愛と呼んでいい？ 雨のプリーツやわらかいこと
雨垂れのカーテン向こうは見えなくて濡れてようやく分かるのだろう
丸くって好きだよ傘も雨粒もその深爪もぜんぶが見たい
切りたてのつま先で触れるきみの頬やっとなついたら黒子のあること

九条しよーこ × 文車雨

@shoco_chocola

@ganunade102

いい朝になる



相傘は濡れてるほうが惚れてると言うけどこの傘ほんとに小さい
新しい傘を買いなおせばばらの未来のための貯金くずして
雨雲の向こうの月のうさぎから見たら僕たちふたりでしょうか
ふたりだよ うさぎはこの星のことをわたしたちの名前で呼んでるよ
僕たちを近似してみればこの星でぼくらはほんの誤差でしかない
ひとつの星かと思ったら銀河で怖い どうせ誤差だし繋いでみる手
この世界僕たちだけになればいい 二人ぼっちになればいいのに
この世界ふたりきりでも真夜中は小声で話そう起こさぬように

拜田啓佑 × 多田なの

@haidaksk

@OhhhhtaNano

夏休みプラレール組み立て講座

ガイドラインみたいにマスキングテープ貼ってここから先はずいぶん夏
うなーというあれは山羊かい？マスキングテープを剥がすときに出す声
むき出しのあかるい夜空ビニールの襷を剥がして雨傘をひらく
傘の柄のハテナを集めていた仙人まだ海岸にいるのだろうか
辺境のハテナボックス延々とIUPキノコを崖へ押し出す
ルイージが変なキノコを食べてから九号線が凄いいみたいね
予防線が凄いい角度で張られててよく見たらそれは獅子座のかたち
獅子座って言ってたじゃない八月の二十四日に照れ笑いで

しま・しましま × こりけケリ子

@sinashima9

@coric_k_riko

レディ・グリーン・スリーブス

ルッコラを育ててピザに添えたって未婚の場合おままごです
ままごとで出された魚は緑色 「緑はススメ」と私が言った
仲直りする前に君がつくったロールキャベツの中がキャベツだ
かんぴょうでなく爪楊枝が刺さってるキャベツは本気かもしれないよ
筒井筒袖にしゃがり童貞の緑のためきつつく女狐
お前こそ風が好きなバツイチの奈良漬けと結婚しやがって
僕の手はきゅうりで君は肌つやの美しい漬け物石だった
心ゆくまで手合わせをしたかった 野原の中の一本道で

蓮沼りんぐいいね茂木 × 檀可南子

@hasnun_mhd

@tan kana

喉の奥には

一言が喉をのぼっていけなくて炊けた白米切り混ぜるだけ
僕だけじゃないはずなのに問いかけてみようとするは消えてゆく湯気
忘れられ涙の跡は残らずにきちんと悲しむことも出来ない
くるしさに向き合う術を見失い言葉ばかりを振りまいている
とりどりの「あなたらしき」で覆われて色を忘れた私を見てよ
ほろほろとこぼれた本音。君だから、だから好きだと今頃気づく
気がつけばあなた好みの白米をまた炊いている湯気に包まれ
こつやってここへ戻って来れたこと君の言葉に触れた温もり

鳩麦 × かつら いす
@HatoTrk @v_vtitiu

祭囃子

華やいだ祭りのきみに逢いたくて車を飛ばす海までの道
まとめ髪半端にほどく夕立よ愚かな夢も流してほしい
きみの住む街に驟雨は続けらし天気予報のラジオが刺さる
正解こたえなら知ってるけれど知るもんか祭囃子に背を向けてみる
またしても祭囃子に導かるわれの大人をすべて捨てたし
約束の場所で見上げる大輪の花は教える やさしい嘘を
仰ぎみるきみの視線を追いかけて瞬時ののちに大輪は消ゆ
遠い夏 背中を熱に包まれて祭囃子をただ聞いている

太田青磁 × 麦野結香
@seijota @juuka_mjku

窓の中

生きているものは皆ひかっていた星の暮らしを教えてくれる
空調が動きつつつける部屋の中ひかりに寄りかかりながら聞いている
「百年後もこうしてると思う」「うん」海から窓につよく吹く風
「うん(だれもいなくならない百年の パニアアイスがゆるく溶けてる)」
生きるのと喋ることは同じこと。会いたいこと話したいこと光時間せんぶ、きみから生まれる
話すことと放すことは同じこと？ それきり口をつぐんでしまっ
生きててもひかることはない星にいていま窓の外、花火流れた
落下して花火が消える あ……と声が溢れる

野村日魚子 × カリフォルニア檸檬
@hngzn @uj_aao

ねむれない同盟

とめどなく流れ落ちる夜 わたしには眠れる場所が見当たらず
眠っても眠らなくても朝は来る自転を止めることはできない
朝はまだとおくで闇はひとりにはせまくて君に電話している
手をつなぐように話しているうちは夜明けが遠いことを忘れる
とめどなく流れる君の声を縫い夜はちいさく結ばれていく
結び目に触れて僕は夢を見る夜明けのような仄明るさの
少しずつ解かれていく君の手の余韻いとし朝はすぐそこ
おはようを送り合ってるねむれない同盟ではないはずなのに

満島せしん × ナタカ
@seshimitsushma @natakaita

ふたりの空

梅雨のないあなたの街は濁ることない青空が広がりますか
梅雨はないけれども雨は降る 空はわたしのころくらしい濁り
濃い雨が降り続けているこの街で憂いた顔のあなたが見たい
憂うなら濃い雨じゃない ことばでは伝えきれない恋に降られて
恋が降るあなたの空にくっきりとした特大の虹をかけよう
虹のかかるわたしの空に君の空かさねればほら梅雨が終わるよ
雨と雲、晴天と虹すべて持つあなたが生きる街で生きたい
どんな空もすべてを持つという秘密かかえて君を迎えに行こう

小川 けいと × 大塚 亜希
@ogwkt @tenn1979

百合の葉に月宿る

ハンカチをひらり落として知らぬふり貴女わたしを灰姫にして
あこがれの人に借されたハンカチがお揃いでした洗って返そう
いもうとの香りのついたハンカチよ君のものだと内緒にしたい
レアチーズわたし好みの白と赤お口に合うかどきどきしてる
レアチーズあのこのような白と赤あかくするのはもちろん私
お湯にまつ茶葉をみているはずですわわたしを見るそんな、え、まさか
恥じらって泳ぎだす目もかわいくて茶葉の様子も気にならないの
くちもとをかえしたばかりのハンカチでめぐわれおもうキスがよかった

双葉 屋ほい × 奈月 遙
@hoiru_utajomi @jou_natskey

あなたを攫ふ光芒

手紙なら夕と夜とを裂いてゆきポストで睡るあなたに触れる
果たされなかつた約束のやうにある詩句のほんのすこしの饒舌を愛す
手の皺は筆を執るたび増えてゆく皺の奥には密かな祈り
ひらく手紙のいちめんの花かき抱いて活けるいまにも割れさうな花瓶へ
カーテンをわづかに開ける 窓なんて開けなくたってひかりは漏れて
ゆふまぐれ 外の世界を思ひつつ紅茶にミルク注げばさみしき
窓辺にてあなたを攫ふ光芒になるゆめをみたてをとつてみて
ゆきの甘さのあなたのオキヤキみたいには攫はれないけど手をつながうか

高橋 鳩 × 岐阜 亮司
@orange100_juice @Ryojififu

金魚鉢のプラネート

水面に中指浮かす風の夜ゆれているのはひれか世界か
金魚鉢越しのかみさまがぼくへと触れようとしながら泣いている
地下道で叫びたかったふたこともえさに混ぜたの こい、いいえ事故
火のようなことばを火のようにゆらいで食むよ。あなたがうれしがるから
木星の月の海まで泳ごうかことばの熱が身を焼くまえに
土砂降りのような涙だ外界を知らないぼくへはじめの雨
天気予報雨のち晴れにできたならきみのうろこをひとつください
海という雨のうつわは満ち空にぼくらをゆるすような太陽

月刻 × ㄩチコ
@horlogedelune @yuchikosan

こんにちは、郵便です



Goddess

望子様お元気ですかと書き出した他人行儀の便せんまるめる
いくたびか書き直した痕便箋の最後にやっと君のまるる文字
隠しても隠せないくせきみからの音符を待ってのぞいたポスト
たくさんの思い出と距離を飲み込んでポストはりんごのように熟れゆく
あなたにはあなたの世界新しく書かれた名前にはじけるソーダ
新しい花が咲いたと手紙にはあつて心に咲く白い花
きみのいる南の空に入道雲ひまわりの切手ていねいに貼る
おしゃべりな渡り鳥です北の空から飛んでくる君の手紙は

春森糸結 × 桜望子
@Junju_usako @MaZraMen

Revolver &

チェスなんて知らねえ俺のビショップで女も鍵も開けりゃいいだろ
いや、おまえは聞いているはずだ。短針が長針に乗る音をなんども
張り込みをしてる時間と娼婦らを待たせる時間どっちが尊い
待っているほうが助手席、待たれてるおまえのほうがつまり助手だな
お、星が動いた。そーいや天動説はアリストペニスってやつ戯言
天才はひとりで長く喋るものだろう 銃口に舌を入れるな
俺はたぶん死ぬんだろうな この指輪より口径の小さな銃で
キングにキングをぶつけて倒す喜びにここはいつから産だったのか

ナイス書 × 平岡直子
@NiceGuuu @tricot7

人は眉をひそめるだろう Ogi 派が CLASSY 派に恋をしている
釣書は見るまでないねだつて皆おとこなんでしょ三十路レスビアン
ウェディングドレス並んで着る夢をワイン二杯目では言えるかな
同窓の結婚式でひっそりとからまる指に祝福がない
幸せの型に上手にはまったと拍手されても音がしないよ
凹凸が噛み合わないままのせつくすもだつて愛しいなんどもあいつ
ふにゃふにゃになるまで触りあつてからハイヒール拒否してるつま先
後悔は愛し愛されるものか『おんなですもの』『おんなですもの』

秋山生糸 × 湊屋
@kito25 @mie_natouja3710

メシエ31星雲



ゆるされてもゆるされなくてもすぐわれてしまつたのアイスクリーム
許されたつもりで拗うひとさじにクッキーアンドクリームの君
約束に埋もれぬようにもうひとつラムレーズンの惑星を積む
真四角のカフェテーブルに向かい合う公転周期の異なる二人
少しずつとけてくアイス 合言葉 雨垂れ アンドロメダの星たち
交わらぬものが幾度と混ざり会う丸い世界を君ごと愛す
重なったアイスみたいなわたしあくまで同じコーンの上で
傾いたクッキーアンドレーズンを受け取る準備 カップにも夏

月丘ナイル × 川庭多機構
@njl_222 @ngakatsuki

ふたりの人魚

明け方にのどを潤しファの音ではじまる歌をあなたへ送る
無機物なメールの揺れをpushさえつつからだの鍵を外すファの音
首筋に歯を当てるとき体温がじわり上がって宵闇にいる
挽きとった無花果のよう月のない夜にふたつが水面に浮かぶ
滝壺にふたりの人魚 鈍色の鱗をはらはら散らして踊る
暗がりにきみのおいは強くなり潮騒といま呼応している
さりさりと濡れ髪ひかり更けるころ赤く火星は燃え尽きますか
白桃を血のように食べ終えたあと月へと帰ってゆくのでしょぅね

森緑 × 白井健康
@murasaki_48 @murajimono

シャツとブラウス

今日のため買った水色ブラウスに夏をはらませ降り立つホーム
おそろいが苦手の僕の白シャツも夏色の君に染められていく
さつきまで雨粒だった水たまり避ければふれる無防備な腕
あっ同じ体温だって気がついて掴んだ腕を離せずにいる
不意打ちの体温がもう心地よく狭い道だけ選んで歩く
照り返すアスファルトから目をそらす君はいつから見つめていたの
肩越しに百日紅まぶしく咲いて 汗かきだっって言っていましたね
目をあけてキスしてたんだ離れぎわ「きれい」は景色のことだったんだ

千原こはぎ × 天国なお
@kohagi_tw @monomijam

花言葉

あの辺がたぶん九州、知らんけど アペノハルカスから見る西のほう
知られずにすむならそれで 夕焼けのまぶしさになほ見晴るかす海
眩しさはふいに私に届きたり水の匂いに咲くアネモネの
さびしさは届いてしまふさびしければ花言葉さへ信じてしまふ
都合のいいものばかりが見えている花は幾つも花言葉を持つ
感情が幾つも咲いてゐる夏よしをれるまへに君に会ひたし
萎れるものは種子を落としていくでしょう芽吹きの時のはるけさを持ち
アネモネの種子をこぼせばはるけさはるけさのまま陽を受けてゐた

森本直樹 × 染野太朗
@naohai_mori @smntaro

夕暮れの翼

あなたというボタンを押すとき指先にしずかに宿る夕ぐれの鳥
夕立はあなたを外へ 水槽のなかの電話につたえたい音
横顔のあなたに似ている雲のした白いバラソル押し広げ待つ
地上までとどけば水になる雲と同じつばさの白だ 光よ
体内を流れる水もひかりだと思えば淡く透けゆく両腕
かたほうの掌でいい湖の鍵をまわして夜明けまで来て
いつか見る暁のはずベランダの三日月錠をゆっくり開ける
恋人が手紙に記す「扉」から光りだす朝 窓辺に眠る

佳丘一穂 × 東夏江実
@KUYURIRA

人魚観察日記

窓を抜けきらきら飛び込む月光と好きなさかなのかたちを話す
ここを海にしてあげようね つまさきにひれのかたちの影をつくつて
壁を泳ぎまわってる僕の影をみて書いた人魚の観察日記
灼けてゆく肌はだなればこの胸はひとの呼吸器をさめてをりぬ
白い肌が鱗のように泡立って咳に混ざった体液を吐く
ひたと添ふ手首の それがねむりだと告げないままで瀕してゐるの
動かないからだの外で乱反射はじめる光 遠のいてゆく
ひるがへる影 まなぶたを閉ぢさせるごとやはき手で終へた日記よ

榛 瑞穂 × 本山まりの
@mainaitsuburo @mhnmrn

蒲地珈琲店



夏の日朝日がいやにたたくて猫背のまま歯を磨くこと
(聞いているの?) この曲好きって言葉にも猫背の君はスマホをさわる
黙っとくべきか言うべきか迷ってる やたらと奥の方で響く「好き」
君が為まだ痛くはない溜め息とやたらと甘い珈琲飲みほす
珈琲の黒い水面へおちながら砂糖あかるく香をはね散らす
黒いサイフォン周りの景色と君のこと上映するだけの小さな星だ
ねえぼくと彼女のいのちを縊り合わせ一本にしてほしいっただけ
一本糸ほちけないよう端っこを団子結びで私の勝利

みちか × 町田もちこ
@michika_h @Mucuze

ひまわり

青空とヒマワリ畑の境目をちらちらゆるる麦わら帽子
「この子にも陽が当たるとよつにしてあげて」ちひまわりを抱きしめている
私より空から遠い君だけど陽が当たってるみたいになる
ひまわりの群のざわつく大風が麦わら帽子を舞い上がらせて
さようなら麦わら帽子さようなら夏さようならさようなら、今
俯いてこぼれた涙は種になる また新しく生まれるために
芽が出たら花が咲いたら見に来てね涙の音は忘れずいるね
濡れた頬を撫でてゆく風 似ていても今とは違う道を探しに

御糸さち × 井倉りつ
@MEATsachi @ura_lit

狼のいるギムナジウム―BL相聞歌

湖水にはギムナジウムと氷島ひょうとうときみをいざない秘密の基地へ
薄き背を抱き寄せて聴く足枷の鎖の奏つ鋭き旋律を
狼の血をひくぼくは嘘つきき二枚の舌の巻きつつ甘し
凶鑑伏せ交わすくちづけ表紙には箔押し金の水面のひかり
クリスマス男子寮にはふたりきりケーキへささる蜜の蝋燭
鉄くろの匂いは雄に似た匂い檻の向こうを月が漂う
剛毛の汗に濡れたる夜のけもの金の蔓草からむ椏の木
崩されて頬張られ溶けて吸われゆく熱に焦がれた削氷けずりひとして

笛地静恵 × 砺波 湊
@mundo_burg @10733710